

## ACM POLICY'98 報告：情報時代の方策を定めるために

山 根 信 二†

ACM (Association for Computing Machinery) の1998年度会議は5月10-12日にワシントンで開かれる。今回のタイトルは“ACM POLICY'98: Shaping Policy in the Information Age”と銘打たれ、これまで社会的発言を行ってきた ACM メンバーが来るべき社会について語るべく顔を揃える。

この大会の性格を知るためには、アメリカの文脈におけるコンピュータ科学者の倫理的・政治的問題意識の変遷をたどる必要がある。加えて、その最新動向を報告する。

### ACM Policy 98 Report: Shaping Policy in the Information Age

YAMANE SHINJI†

ACM annual conference in 1998 is titled “ACM POLICY'98: Shaping Policy in the Information Age”. At this conference, the ACM members who have been given a political voice to the public get together.

As the background of this conference is broad, it is important to refer to the history on computer scientists' awareness of ethical and political issue. Then the current issue will be reported.

#### 1. 大会の性格

ACM (Association for Computing Machinery) は1947年に設立された最も伝統あるコンピュータ専門家学会であると同時に、100の国の80000人のメンバーを擁するコンピュータ業界で最も大きな職能集団です。

前回大会のACM97では50周年記念大会として“The Next 50 Years of Computing”という大きなテーマが掲げられましたが、今回の大会は“ACM POLICY'98: Shaping Policy in the Information Age”というタイトルの下に5月10日から12日にかけてワシントンにて開催されます。この policy という言葉には「政策」というだけでなく「手段」「深慮」という意味もこめられており、コンピュータ専門家が今後あるべき社会を多角的に構想する場を提供するものです。そのために1日目はACM SIGCAS (Special Interest Group on Computers and Society) が倫理や社会的インパクトをとりあげ、2日目と3日目はUSACM (ACM U.S. Public Policy Committee) がコンピュータ関連の政策をとりあげるという幅広い構成になっています。

今回の大会には開催地ワシントンから政策立案に携わる人物も参加します。しかし単なるコンピュータサイエンスと政策論との雑居大会ではありません。ACMとそのメンバーは以前からアメリカ政府ならびに政府系機関に対して専門家ならではの政策提言や政治運動を行ってきたからです。したがって、この大会の性格をよりよく知るためにはメンバーの政治的あるいは倫理的な問題意識をたどる必要があるでしょう。

#### 2. 参加団体とメンバーの横顔

以下に主だった参加団体やメンバーについて紹介します。なおこれは筆者が独断で選んだもので、ほんの一部にすぎません。

##### 2.1 USACM

大会を組織する団体の一つであるUSACM (ACM U.S. Public Policy Committee: ACM 合衆国公共政策委員会) は、アメリカ政府機関に対して批判的提言を行ってきました。科学者の立場から情報の再配付を制限しかねないコピーライト法案に異議を唱えるという「ハッカー倫理」<sup>1)</sup>的な声明からキーリカバリ政策に反対する声明まで、その活動は科学者ならではの視点を政策に反映させる上で重要な役割を担っています。また政

† 東北大学大学院情報科学研究科テキスト情報解析論  
VACIA, Graduate School of Information Sciences, To-  
hoku University  
URL: <http://www.vacia.is.tohoku.ac.jp/~s-yamane/>

\* 「アメリカではキーリカバリ政策の検討が進んでいる」という新聞報道あるいは審議会報告が最近日本で散見されますが、キーリカバリ政策が危険であり非現実的だと結論するコンピュータ科学

府の技術政策を追跡する隔週の刊行物も発行しており、それらはオンラインでも入手可能です<sup>4)</sup>。

## 2.2 CPSR と Terry Winograd

大会の共催団体の一つ、CPSR (Computer Professionals for Social Responsibility: 社会的責任を考えるコンピュータ専門家会) のメンバーの活躍も特筆に値します。CPSR の活動については *Hacker Crackdown*<sup>5)</sup> や *PGP*<sup>5)</sup> といった読み物でも言及されていますが、ここでは CPSR の活動の特徴づけた 1980 年代中盤の SDI (Strategic Defence Initiative: 通称スターウォーズ計画) 反対運動について紹介します。

その危険性が SF 映画『ターミネーター<sup>7)</sup>』でも茶化された SDI ですが、当初は核ミサイルを過去のものにするとして盛んに宣伝され、日本政府も SDI への研究参加を表明したほどでした。この日本政府の参加表明に対しては日本数学会や物理学者集団が日本国憲法や日本科学者会議の理念に基づいて反対声明を出しています<sup>8)</sup>。一方 CPSR は計画のリスクを分析し、その非現実的な点に異議をとなえています。この運動を通じて、コンピュータの脆弱さを軽視した政府の技術政策を専門家が監視しようという気運が高まります。

この CPSR 発起人の Terry Winograd が今回のプログラム委員に名を連ねています。彼は AI や HCI (human-computer interaction) の分野でも名高い科学者ですが<sup>9)</sup>、SDI 反対運動でも有名です。彼は「一人の科学者が黙って SDI の研究をやめようと決断すれば、その影響は彼一人の研究にとどまる。もしも職業団体を巻き込めば、単に政治的影響が増大するだけでなく、すべての同業者に働きかけることになる<sup>10)</sup>」という考えの下に専門家集団を巻き込む戦略をとりました。この戦略に基づいて CPSR メンバーは他の専門家集団でも先導的な立場を占めるようになり、USACM でも (*Communications of ACM* の “Inside Risks” に寄稿している Peter Neumann によれば) 11 人のメンバーの半分以上を CPSR メンバーが占めています<sup>11)</sup>。

この戦略はかなり実践的で、「CPSR の倫理綱領をつくるよりも、IEEE や ACM といった他の団体が倫理綱領をつくることに働きかけることに力を注いできた<sup>12)</sup>」といわれるように、倫理綱領も他の専門家集団のメンバーに働きかけるために使おうとするものでした。つまり近年になってコンピュータ技術者集団が倫理綱領を策定するようになった背景には、CPSR に見られるような政府機関 (あるいは雇主) のポリシーに警鐘

者の報告<sup>2)</sup> に対して反論が提出された事実はありません。(EU ではその分析をふまえた暗号利用の枠組み<sup>3)</sup> がすすめられています。)

を鳴らそうとする動きがあります。

CPSR はこの他にもワシントン事務局を再編成して EPIC (Electronic Privacy Information Center) として独立させたり、現在インターネットガバナンスに関する原則<sup>13)</sup> を RFC 化に向けて提案中したりと多岐にわたる活動を展開しています。

## 2.3 Pamela Samuelson

*Communications of ACM* での定期連載 “Legally Speaking” が広く読まれている (国内でも「良心的な学者」と評されたことがある<sup>15)</sup>) Pamela Samuelson<sup>14)</sup> も、今大会のプログラム委員とパネル討論の司会に加わっています。彼女の ACM における活動は 1980 年代に遡ります。1989 年の ACM Conference on Computer-Human Interaction において行なったユーザ・インタフェースの著作権問題に関する模擬裁判は、法律プロパーらしい参加として ACM メンバー以外にも広く注目されました<sup>16)</sup>。コピーライトなど個々の論考もさることながら、模擬裁判を提案したりして公正さを手放さないところも専門家から支持を得ている結縁でしょう。

## 2.4 ワシントンからの参加者

開催地のワシントンらしい発表者としては、大統領上級顧問をつとめる Ira Magaziner や、公的資金による研究支援を行なっている<sup>17)</sup> NSF (National Science Foundation: 全米科学財団) のコンピュータ・情報科学・エンジニアリング部門長になった Juris Hartmanis が登壇します。政策や資金面で影響力を持つリーダー自身による施策説明は、研究者のみならず今後の施策に関心を寄せる参加者には興味深い顔ぶれです。

また、上院司法委員会の Orrin Hatch チェアマンがコピーライト政策について P. Samuelson が司会するパネルで報告を行ないます。上院司法委員会は最近 Microsoft に関する審問会を開いたことでも知られますが、パネルでは将来のコピーライトのあるべき姿という大きいテーマが扱われます。

## 3. 終わりに

この他にも NPO やシンクタンク、前日に行なわれる USACM 主催のワークショップなど、ACM の層の厚さを伺わせるプログラム構成になっています。ACM がこれまでアメリカの文脈で築きあげてきたものに触れることは他の文脈においても少なからず参考になるでしょう。

(末尾に ‘ACM POLICY’98 のプログラムを添付します。)

## 参 考 文 献

- 1) "On-line hacker Jargon File, version 4.0.0", 1996.  
Printed as Raymond, Eric S. ed.: *New Hacker's Dictionary* 3rd Edition. MIT Press (1996).
- 2) Abelson, H., Anderson, R., Bellovin, S., Bernaloh, J., Blaze, M., Diffie, W., Gilmore, J., Neumann, J., Rivest, R., Schiller, J., and Schneier, B.: "The Risks of Key Recovery, Key Escrow, and Trusted Third-Party Encryption" URL: [http://www.crypto.com/key\\_study/](http://www.crypto.com/key_study/) (1997)
- 3) European Commission: "Towards A European Framework for Digital Signatures And Encryption", COM (97) 503. (1997)  
URL: <http://www.ispo.cec.be/eif/policy/97503toc.html>
- 4) USACM Home Page,  
URL: <http://www.acm.org/usacm/>
- 5) Garfinkel, Simson: *PGP: Pretty Good Privacy*, O'Reilly & Associates, Inc. 1995. *PGP: 暗号メールと電子署名*, 山本和彦 監訳, O'Reilly Japan, Inc. (1996).
- 6) Sterling, Bruce: *Hacker Crackdown: Law and Disorder on the Electronic Frontier* Electronic Release (1994).
- 7) Cameron, James: *Terminator*, USA (1984).
- 8) 日本科学者会議 編: 科学者の権利と地位: 科学者・研究者・技術者の権利問題に関する資料と解説. 東京, 水曜社 (1995).
- 9) 溝口 文雄: "人口知能の研究者たち 5 言語理解からグループテクノロジーへ T. ウィノグラード", *bit*. 21(12) 共立出版, pp. 73-80 (1989).
- 10) Winograd, T.: "Computers, Ethics, and Social Responsibility" in *Computing and Human Values: Proceedings of the 1991 Conference*, Research Center on Computing and Society (1992).  
Reprinted in Johnson, Deborah G. and Nissenbaum, Helen, ed.: *Computers, ethics and Social Values*. Prentice-Hall (1995).
- 11) Neumann, P.: "Notes on Receiving CPSR's Nibert Wiener Award", *CPSR Newsletter*, 15(4), pp. 6-7 (1997).
- 12) Woodbury, Marsha: "Words from the Web" *CPSR Newsletter*, 16(1), pp. 21 (1998)
- 13) Borenstein, N., Hochheiser, H. and Oram, A.: "One Planet, One Net: Principles for the Internet Era", *draft-cpsr-one-net-01.txt Internet-Draft* 04/07/1998.
- 14) Pamela Samuelson  
URL: <http://www.sims.berkeley.edu/~pam/>
- 15) 米田 英一: "「インターネットと倫理観」に関する雑感", *bit*. 29(10). pp. 10-14 (1997).
- 16) Stallman, Richard: "ユーザ・インタフェースの著作権に反対しよう", *Think GNU*-プロジェクト GNU 日記とソフトウェアの憂鬱-, ビレッジセンター (1993).
- 17) 相場 亮・平田 圭二・飯村 次郎・佐藤 真紀子: "米国政府による情報技術への研究支援 - NSF と DARPA の事例研究-", *情報処理*, 38(6) pp. 507-514 (1997)

# Conference Agenda

---

## Sunday, May 10th, 1998: Focus on Ethics and Social Impact

- 8:30am Coffee, Registration  
9:00am Opening of Policy98  
C. Dianne Martin, SIGCAS, Policy'98 Co-Chair
- 9:15am-9:45am Session 1 :  
If Aristotle Were A Computing Professional  
Speaker:  
James Moor, Dartmouth
- 9:45am-10:00am Break  
10:00am-11:15pm Session 2:  
Parallel Paper Presentations  
2A: The Virtual Panopticon - surveillance, cryptography, the future  
2B: Ethics, Policy and Power  
2C: Professional (Ir)responsibility Unveiled professional codes of ethics
- 11:30pm-12:45pm Session 3:  
Kids Online: Home, School, and the Web  
Moderator:  
Bob Kraut, Carnegie Mellon University, Homenet founder  
Panelists:  
Janet Schofield, University of Pittsburgh  
Leonard Waks, Temple University
- 12:45pm-2:00pm Brown Bag Lunch with speaker (attendees buy box lunches)  
Topic: **The Wheel: Where the Rubber Hits the Road for Computer Professionals**  
Moderator:  
C. Dianne Martin, SIGCAS, Policy'98 Co-Chair  
Speaker:  
Richard Epstein, Westchester University
- 2:15pm-3:30pm Session 4:  
Parallel Paper Presentations  
4A: Private Lives on the WWW  
4B: Teaching Ethics and Social Responsibility - methods, topics, issues  
4C: Virtual Community Building - on the job and online

- 3:45pm-5:00pm Session 5:  
Privacy: Lost in Cyberspace?  
Moderator:  
**Anita Baker, Lockheed Martin Corporation**  
Panelists:  
**H. Jeff Smith, Georgetown University**  
**Judith DeCew, Clark University**
- 5:15pm-6:00pm Session 6:  
Point and Counterpoint: Media Views of the Future of Computing  
Speakers:  
**Esther Dyson, EFF and**  
**Gary Chapman, University of Texas**
- 7:00pm ACM Awards Banquet  
Envisioning the Future: **John Gage, founder of NetDay**  
(All conference attendees are invited to this banquet.)
- 

## Monday, May 11th, 1998

- 8:30am Coffee, registration  
9:00am Welcome  
**Ben Shneiderman, University of Maryland, Policy'98**  
**Co-Chair**  
**Barbara Simons, IBM, Chair USACM**
- 9:15am-10:00am Session 1:  
Technology Report: **The Next Decade in Computing**  
Speaker:  
**Robert E. Kahn, President, CNRI**
- 10:00am-11:30pm Session 2:  
**Electronic Commerce**  
Moderator:  
**Jim Horning, InterTrust Technologies Corporation**  
Panelists:  
**Commissioner Mozelle Thompson, Federal Trade Commission**  
**Lance Hoffman, George Washington University**  
**Ken Kay, Computer Systems Policy Project**  
**James Pitkow, Xerox PARC/GVU**  
**Hal Varian, University of California at Berkeley**

- 11:30am-12:00pm Session 3:  
    **White House Report**  
    Speaker:  
        **Ira Magaziner, Special Advisor to the President**
- 12:00pm-1:30pm Lunch
- 2:00pm-2:30pm Session 4:  
    **Congressional Report: The Role of the Federal Government in Computing**  
    Speaker:  
        **Representative Constance Morella**
- 2:30pm-4:00pm Session 5:  
    **Intellectual Property in Cyberspace**  
    Moderator:  
        **Pamela Samuelson, University of California at Berkeley**  
    Panelists:  
        **Chairman Orrin Hatch, Senate Judiciary Committee\***  
        **Julie Cohen, University of Pittsburgh School of Law**  
        **Randy Davis, MIT**  
        **Michael Lesk, National Science Foundation**
- 4:15pm-5:00pm Session 6:  
    **Agency Report: The Role of NSF in Computing Policy**  
    Speaker:  
        **Dr. Juris Hartmanis, National Science Foundation**
- 5:15-6:15      **USACM Open Meeting**  
6:30-8:00      **Reception, American Association for the Advancement of Science**
- 

## **Tuesday, May 12th, 1998**

- 8:30am      Session 7:  
    **Congressional Report: Reformulating US Science Policy**  
    Speaker:  
        **Representative Vern Ehlers**

9:30am-11:00pm Session 8:

**Learning Online**

Moderator:

**Charles Brownstein, XIWT**

Panelists:

**Senator Olympia Snowe\***  
**Bernadette McGuire-Rivera, TIAP**  
**KG Ouye, Schools and Libraries Corp.**  
**Nora Sabelli, National Science Foundation**  
**Al Rogers, Global SchoolNet Foundation**  
**Elliot Soloway, University of Michigan**

Demonstration: **Kids on The Net in Action**

11:15pm-12:00pm **Making Science Policy**

Moderator:

**Dan Charles, National Public Radio**

Panelists:

**Lauren Gelman, USACM**  
**Don Heath, Internet Society**  
**Bob Park, American Physical Society**  
**Deborah Rudolph, IEEE**  
**Al Teich, AAAS**  
**Rick Weingarten, Computer Research Association**

12:00pm-1:30pm Lunch

2:00pm-2:30pm Session 9:

**Industry Report**

2:30pm-4:00pm Session 10:

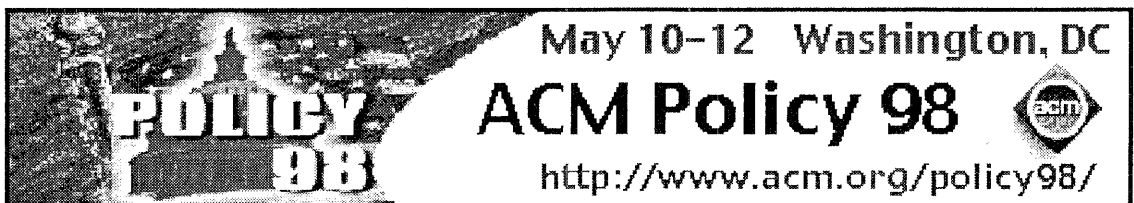
**Universal Service**

Moderator:

**Olliver Smoot, Information Technology Industry Council**

Panelists:

**Larry Irving, National Telecommunications and  
Information Administration**  
**Tora Bikson, RAND**  
**David Boaz, CATO Institute**  
**Robert Ellis, SIGGRAPH**  
**Dave Farber, University of Pennsylvania**



May 10-12 Washington, DC  
**ACM Policy 98**  
<http://www.acm.org/policy98/>

The banner features a grayscale image of a classical building facade on the left. The text 'POLICY 98' is overlaid on the image in a large, bold, sans-serif font. To the right of the image, the event details are listed in a clean, sans-serif font. The ACM logo, a diamond shape with 'acm' inside, is positioned to the right of the main title.